

二つの新しい補助金で事業者の「挑戦」を応援します！

町では「ふるさと納税（ふるさとGENKI応援寄附金）」を活用し、地域経済を活性化する新たな補助制度を開始します。

1. 白老町魅力発信応援事業

～自慢の特産品と白老の魅力を全国へ広めたい！～

道外で開催される物産展や商談会への出展費用を支援します。

- (1) 対象：道外での物産展・展示会・商談会など
- (2) 補助：最大30万円
- (3) 活用例：出展にかかる費用など



2. 白老町ローカルイベント支援事業

～まちを盛り上げるイベントを開催したい！～

民間が主導する地域のにぎわいや交流を生むイベントを支援します。

- (1) 対象：町内の事業者等が町内で実施するイベント
- (2) 補助：最大30万円
- (3) 活用例：会場設営費、広告宣伝費、出演料・謝礼など



詳細はこちらの2次元コードから町公式ホームページを確認してください！

問い合わせ先：産業経済課 商工観光係 ☎82-8214

知っておこう アイヌ文化

タネ・ペツネカ

イランカラプテ。本格的な春を向かえ、今月下旬、チキサニでは森野地区でキビなどの穀物の栽培を開始します。様々な文献を読んでいると、アイヌ民族の農耕は肥料を与えず、シカの角や木の枝で土を耕す原始的なものであったと紹介されています。それでもアワ、ヒエ、キビなどの穀物は古くから作られ、今から200年ほど前にはジャガイモやトウモロコシ、大根、インゲン豆などを作っていたことがわかっています。知里真志保の「原始農業の呪術的性格」によれば、アイヌ民族はアワを蒔く時、実りをよくするために「タネ・ペツネカ（種・濡らし）」という呪法を行い、例えば幌別地方ではヤドリギを細く刻んで、水に漬け込み、ドロドロになるまで腐敗させたものの中にアワの種を浸してから畑にまくと言います。ヤドリギは一見、木の枝に作られた鳥の巣を思わせる常緑樹で、アイヌ語でニハル（ニ＝木、ハル＝食べ物）と呼び、「収穫」の意味もある「ハル」という言葉が含まれていることから、ヤドリギが収穫をもたらす呪法に用いられたのであろうと知里は述べています。他にもウドの茎葉やシギなどの鳥の卵もタネ・ペツネカに用いたとあります。さて、5月23日(土)開催予定の山のイオル「野外学習」では、キビの種まきなどの体験を行います。詳細は本誌のくらし百科 催しの「イオル体験交流事業」をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております！



アイヌ文化ではデンプン採取にも利用したヤドリギ

問い合わせ先：イオル事務所 チキサニ ☎82-6301